

経済学会第 567 回例会

2017 年 11 月 15 日

"Aggregate demand shortage in a labor market frictions model"

橋本 賢一

要旨

本研究では、労働市場の摩擦がある経済に、需要不足が生じるメカニズムを導入した動学マクロモデルを構築する。すなわち労働市場の摩擦によって生じる失業（摩擦的失業・構造的失業）と景気変動などを通じた過小な需要不足によって生じる失業（需要不足失業）の相互依存関係を考察できるモデルを構築することを目的とする。このとき、一般的に知られた労働市場の摩擦モデルから得られた帰結（労働市場の環境や、労働政策が市場に与える効果）が、需要不足が生じるもとではどのように修正がなされるかを検討できる。具体的に失業手当を考えてみよう。労働市場の摩擦モデルでは、失業者と企業の交渉できる賃金は、失業手当によって押し上げられる。このとき、企業の参入は減少し、雇用を減少させる。もし需要不足によって生じる失業があれば、この雇用減少圧力が、生産市場の需要と供給の乖離を押し下げ、デフレ率が緩和するチャンネルが生じる。本研究の分析から、労働市場の摩擦モデルにおける労働政策などの変化は、財市場の調整から生じる雇用の変動をもたらすことが確認され、通常労働市場の摩擦モデルから期待される効果を反転させる可能性を明らかにした。